

フォーラム発言要旨

古田 :	<p>本日、コーディネーターを務めさせていただきます古田と申します。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>リレー式次世代健全育成事業の一環で、「～つなげよう 次世代へ育成の力を～」と題して「地域の育成力を考えるフォーラム」を始めます。</p> <p>この事業の趣旨ですが、地域の大人・青年が一体となって青少年の健全育成に取り組む体制を地域で構築してもらい、地域の青少年が青少年を育てていくという環境を整備していくことを目的としています。</p> <p>現在、県内の多くの地域や団体でこの活動に取り組んでいただいています。</p> <p>今回、パネリストとしてお話していただくのは地域で主体的にリレー式次世代健全育成事業に取り組んでいる団体で、その活動の現状や課題、それに対する解決方法などをお伺ひし、地域の育成力向上に必要な取組を考えていきたいと思ひます。</p> <p>自己紹介を兼ねて現在の活動に取り組みだしたきっかけなどをお話いただきたいと思ひます。</p> <p>有田川町ジュニアリーダーの篠原さんお願ひいたします。</p>
篠原 :	<p>活動に参加したきっかけは、姉がジュニアリーダーの活動に参加していて、その活動を身近に感じていたことです。姉の楽しそうに活動している姿を見ていて、自分もやってみたくて思ひました。</p>
古田 :	<p>ありがとうございます。</p> <p>篠原さんは、住んでいるところのどんな所が好きですか？</p>
篠原 :	<p>はい。自然が豊かで、住んでいる人たちが温かいところです。</p>
古田 :	<p>ありがとうございます。</p> <p>次に、有田川町教育委員会の林さんお願ひします。</p>
林 :	<p>有田川町は、平成18年に吉備町、金屋町、清水町の3町が合併し誕生しました。</p> <p>ジュニアリーダー組織については、旧3町が合併する前から子ども会経験者の受け皿として、子ども会に所属する子供を指導する立場として活動が始まりました。</p> <p>現在会員数としては80名が在籍しており、町内の中学1年生から高校3年生までで構成されています。</p> <p>年間の計画としては、月に1回程度定例会を実施するとともに季節に応じた事業に取り組んでいます。活動事例としては、夏には宿泊研修、秋にはハロウィーンの仮装などを行っています。</p>
古田 :	<p>ありがとうございました。</p> <p>ジュニアリーダーとはどんな団体ですか。</p>

<p>林 :</p>	<p>有田川町のジュニアリーダーは、子ども会の出身者や、町が実施する社会教育事業に参加した人の集まりで構成しています。</p> <p>ジュニアリーダーは、地域の子ども会に所属する児童からみれば、年の近いお兄さんお姉さんとして児童の自主的な活動をサポートする存在です。</p> <p>具体的には、町が実施する事業において、子供たちの活動が円滑に進むよう自身の経験等をアドバイスしたりします。また、大人に対し子供たちの意向を伝えたり、交渉したり、逆に育成者の意向を子供たちに伝えるような橋渡しの役割なども担います。</p> <p>また、レクリエーションの企画・運営・指導を行ったりします。</p>
<p>古田 :</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、木下さんよろしくお願いします。</p>
<p>木下 :</p>	<p>私は、祭りなどに参加し地域の人の温もりを感じながら成長してきたので、地元美浜町がすごく好きです。そんな美浜町を守りたい、もっと知りたいと思い高校生おんぱく部に参加しました。</p> <p>私たちは高校生おんぱく部として、「真夏の学園祭」と「ジオキャッシング」という2つのイベントを企画しました。</p> <p>私は、イベントの企画が初めてであったため、大人の方との交渉や経理など初めての経験がたくさんあって良い学びとなりました。</p>
<p>古田 :</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>木下さんは、美浜町のどんなところが好きですか？</p>
<p>木下 :</p>	<p>地域住民の方々が大好きです。祭りの終了後に「お礼参り」といって、獅子舞で地区内の家を全て訪問させていただいた際、住民の方々が「ご苦労さん」と優しい声かけをしてくれるなど、いつも応対に感動するので活動を続けています。</p>
<p>古田 :</p>	<p>次に、「おんぱく」事務局の平野さんお願いします。</p>
<p>平野 :</p>	<p>「おんぱく」の活動は、平成27年6月から開始しました。</p> <p>「おんぱく」は、実行委員会形式で運営しており、当初は地域を思う大人で構成していましたが、大人だけではなく子供たちを巻き込むことができないかと思い、地元の4つの学校（日高・紀央館・南部・和歌山高専）から有志を募り、高校生おんぱく部を平成28年1月に結成しました。学生たちが学校の枠を越え、いろいろな人と繋がりを持ってもらい、実際に地域の大人と触れ合う中で郷土愛を持ってもらうために活動を始めました。</p>

古田：	<p>ありがとうございました。 「おんぱく」というのはどんな活動ですか？</p>
平野：	<p>正式名称は、御坊日高博覧会といいます。 大分県の別府で始まった「温泉泊覧会」の手法を用いた地域活性化型のイベントで、現在全国各地約70カ所で実施されています。「おんぱく」は、地域に関心を持ち、自ら考え活動する活動人口を増やそうという目的で活動しています。内容は、人を含めた地域資源を使った「プログラム」とよばれる体験交流イベントを御坊市や日高郡の各地で約40日間開催します。 「やりたい人がやりたいことをする」のが、「おんぱく」の特徴なので、おもしろいアイデアを持った人や地域の魅力を知って欲しいと思っている人が「パートナー」となってプログラムを実施します。 来年は、4月1日～5月7日にかけて開催を予定しています。</p>
古田：	<p>ありがとうございました。 次に、古座川思い出プロジェクトの須川さん、よろしくお願いします。</p>
須川：	<p>活動状況は、町内の青年有志が、冬に町内の幼児や小学生による竹灯籠の制作やイルミネーションの点灯、夏や秋には、地域活性のために古座川付近でブースを出展したり、地域の物産を販売したりするイベントの実施などを行っています。 今年の冬には、昨年を引き続き、小学校の校庭にある大きなもみの木に中学生の協力を得て飾り付けし、イルミネーションの点灯を実施します。 これからも、少しでも古座川を盛り上げ、子供たちの記憶に残る思い出になるイベントを実施し、子供たちが自分のふるさとを自慢できる取組ができればと思い有志と活動しています。</p>
古田：	<p>ありがとうございました。 古座川町のどんなところに魅力を感じますか。</p>
須川：	<p>なんと言っても清流古座川だと思います。とてもきれいな川のおかげで天然うなぎ、鮎などが豊富に取れるなど、自然と近く共存していることが素晴らしいと思います。</p>
古田：	<p>ありがとうございました。 パネリストの方々に何か質問等はありませんか。</p>
須川：	<p>ジュニアリーダーについて質問します。 古座川思い出プロジェクトについては、昨年発足したばかりの団体です。 来年度以降、更に中・高校生との協働で事業を展開したいと考えています。</p>

	<p>有田川町については、子供たちにどのようにして事業に参画してもらっていますか。</p>
林：	<p>新年度当初に中学校に募集チラシを配布しています。</p> <p>4月当初は、チラシを見てジュニアリーダーに加入する子供たちは3~4名と少数ですが、町が実施している社会教育事業に参加した子供が、同年代が楽しそうに活動している姿を見るなどして徐々にリーダーに加入してきます。</p>
古田：	<p>ジュニアリーダーの活動を行っていく上での効果や課題などについて、篠原さんをお願いします。</p>
篠原：	<p>効果としては、ものごとを進める場合に仲間と協力しながらでないとスムーズに進めていくことができないので、仲間との協力を学べる所だと感じます。</p> <p>例えば、大きなイベントとなると一人ではできない作業が沢山あるので、メンバーと協力し合いながら作業を進める方が効率よくできます。話し合いをすることでコミュニケーションがとれ、楽しく作業ができます。</p> <p>また、イベントに向けいろんなことを考える必要があり、自分から積極的に行動しなくてはいけないので自主性が高くなると思います。</p>
古田：	<p>ありがとうございます。</p> <p>有田川町の林さんにお聞きします。現状におけるジュニアリーダークラブの課題等についてをお願いします。</p>
林：	<p>現状の課題としては、有田川町は旧吉備町、旧金屋町、旧清水町の3町が合併して誕生しました。ジュニアリーダーは現在約80名が登録しており、その約7割が旧吉備町に居住し、残りの3割が旧金屋町に居住しています。旧清水町に居住しているジュニアリーダーが一人もいないので、全地域から加入してもらいたいと考えています。</p> <p>近年、ジュニアリーダーへの加入者が増加してきていることは、非常にありがたいことですが、その活動に対する資金の確保が課題としてあります。様々な方面から補助金などをいただき、工夫して実施しているつもりですが、もう少しあれば、もっと活動の幅を広げていけるのではないかと感じています。</p> <p>効果としては、ありきたりになりますがコミュニケーション能力の向上があげられると思います。例えば、異世代間、特に小学生に対して指導を行う場合、自分で考えて相手に合わせて指導するようにしています。</p> <p>また、町で大きな行事がある時にはリーダーもブースを出展したりして、物を販売する場合の考え方も醸成されていると思います。</p> <p>様々な活動の中で、中学生から高校生、さらに大人の人と関わる活動を通じて、学校では体験できない経験が出来ているのではないかと感じています。</p>

古田：	<p>ありがとうございました。 子供たちと関わる中で印象に残っていることはありますか。</p>
林：	<p>私は、ジュニアリーダーを担当して2年目になります。その中で印象に残っていることは2点あります。</p> <p>1点目は、町のイベントにおいて、毎年、ジュニアリーダーで模擬店を出しています。1年目に感じたことは、子供たち自身が、模擬店を出す理由などを分からず目的意識が薄い印象を受けました。そこで、まず子供たちに何をいくらで売るのがかを考えさせ、目的意識を持ってもらうように話し合いました。すると、売り上げだけでなく、利益を意識するようになりました。今年度は、初期段階から去年の経験を活かして行動してくれました。</p> <p>2点目は、研修会において、世界で100例程度しかない珍しいタイプのがんで夫を亡くされた東内麻里（とうないまり）さんに講演をしていただきました。</p> <p>この研修会を開催するに当たっては、命に関わる話なので事前に友人のカウンセラーや指導主事の先生方に相談し、私自身いろいろ考え実施しました。講演中、リーダーたちは、神妙な面持ちで話を聞いていました。</p> <p>終了後の感想文を読む中で、ジュニアリーダーの中に家族を亡くした一員がいるなど、私の知らないジュニアの姿がありました。予想以上に、参加者のいろいろな思いを見せてくれたことが印象に残っています。</p>
古田：	<p>ありがとうございました。 次に、高校生おんぱく部の木下さんお願いします。</p>
木下：	<p>私の場合、効果というか自分の糧になったものは、地域の大人や他校の生徒や学年の違う友達と繋がりを作ることができたことが、この活動を行っていて一番良かったと思っています点です。様々な活動に参加させていただき、御坊・日高地方の魅力を再発見することができました。</p>
古田：	<p>ありがとうございました。 今、地域の大人や他校の生徒と繋がりを作ることができたとお話ししていただきましたが、具体的に「繋がり」とはどんなことだと感じていますか？</p>
木下：	<p>私にとっての繋がりとは、私を強くしてくれるものであると考えています。</p> <p>例えば、繋がりがない状況で、私が一人ならば今回のイベントを企画することは、すごく大変だったと思います。今回の企画において、パソコンや経理などを得意とする友達や、数多くのイベント経験してきた大人の方々が私を助けてくれたりアドバイスをくれたりして、今回のイベントを作り上げることができたので、繋がりというものは人を強くするものだと、私は感じました。</p>

<p>古田：</p>	<p>ありがとうございました。 次に、平野さんお願いします。</p>
<p>平野：</p>	<p>高校生おんぱく部の学生たちが得たものとしては、大きく3つあると思います。 1つ目は、学校や学年の枠を超え、友人が出来たこと。 2つ目は、地域の大人と共に活動することにより、異世代間交流が生まれ、地域との繋がりが深まったこと。 3つ目は、自分たちで企画し実施することの喜びと難しさを体験できたこと。 また、大人が得たものとしては、学生たちと活動を共にすることで、学生への理解が深まったこと。学生たちが、大人たちの取組について関心を持ち、学生たちが話を聞いてくれることで元気が出たということ。 また、課題としては3つあります。 1つ目は、日程調整です。学校でそれぞれテストの時期が違うことから、なかなかみんなが集まれない。大人と学生とでも予定が合いにくい。 2つ目は、連絡手段で、みんなが情報を周知するためにSNSを利用したのですが、スマートフォンを持っていない学生もおおり、かなり注意を払わないと情報を全員に伝えきるのは難しいこと。 3つ目は、目的の共有です。活動の目的などを常に共有しておく必要を強く感じるがなかなか周知するのが難しいところです。</p>
<p>古田：</p>	<p>ありがとうございました。 高校生が活動しやすいように同世代の繋がりのシステムを作っていくことは、すごいことだと思います。事業を継続していく上で、大人の横の繋がりはどのように働きかけをしていったのか教えてください。</p>
<p>平野：</p>	<p>御坊・日高地方においては、人口減少が深刻な現状であり、打開したいメンバーが集まり、「おんぱく」を企画しました。御坊・日高地方でそれぞれ活躍している人、何かしたい、何かしなければならぬと考えている人に個別に声をかけました。「この地域の魅力には、どのようなものがあるか」の議論を重ねる実行委員会が立ち上がりました。</p>
<p>古田：</p>	<p>ありがとうございました。 須川さんよろしくお願いします。</p>
<p>須川：</p>	<p>効果としての1点目は、イベント実施において、町内の子供の9割以上の参加が得られたため、日頃交流することのない世代が集い一つの目標に取り組めたこと。 2点目としては、大人の動きを見て高学年の子供たちが率先して行動し、またその姿を見て低学年の子供たちもお兄ちゃんお姉ちゃんを見習い、自分たちのできる範</p>

	<p>困で手伝いをしていたことが印象的でした。3点目としては、点灯式当日は、子供と保護者が制作した竹灯籠の点灯を楽しみに、親子での参加や祖父母、近隣住民の方も見学に来てくれました。中でも、自分たちの制作した竹灯籠を見せるために、近所の人を連れて一緒に見に来ているのが印象的で、地域間交流に繋げていければと考えています。</p> <p>課題としては、誰が何をするなどの役割分担です。</p> <p>昨年度は、学校の保護者会などの協力をいただき実施できましたが、核となるメンバーが少なく、メンバー以外に対して事業趣旨等が共有出来ていなかったことです。</p>
古田 :	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、活動を行っていく上で、今後どのような取組をしていきたいかをお話いただければと思います。</p>
篠原 :	<p>有田川町の篠原さん、お願いします。</p> <p>はい。現在も様々な活動を行っているのですが、さらに地域に貢献できるように積極的にジュニアリーダーから発信していきたいと思っています。</p>
古田 :	<p>ありがとうございました。</p> <p>林さんお願いします。</p>
林 :	<p>今後は、さらに地域に密着した活動を行い、ジュニアリーダーから次の世代に有田川町の素晴らしさを伝えるような取組をしていきたいと思っています。</p>
古田 :	<p>ありがとうございました。</p> <p>木下さんお願いします。</p>
木下 :	<p>私は、今年の「おんぱく」の広報ポスターに載せていただきました。私の活動を見た地元の役場の方から連絡をもらい、美浜町のPR動画の撮影にも参加させていただきました。大学進学後、地域を活性化させる勉強に取り組み、地元に戻り就職したいと思っています。また、今回「おんぱく」に関わった高校3年生の高校生おんぱく部が地元に戻ってきたときに、地域で活動できるような環境作りもしたいと思っています。</p>
古田 :	<p>ありがとうございました。</p> <p>今回、関わった高校生おんぱく部の学生が地元に戻ってきたときに、地域で活動できる環境作りがしたいと言われましたが、具体的にどんな活動を考えていますか。</p>
木下 :	<p>私たちが出会ったきっかけは、「おんぱく」があったお陰なので、また一緒に参加</p>

	<p>したいと考えています。また、地元に戻ってきたメンバーは、絶対「何かしたい！」と考えると思うので、私が声をかけるなど行動していきたいと思っています。</p>
古田：	<p>平野さん、事務局の立場でお願いします。</p>
平野：	<p>今年、高校生おんぱく部の活動として、1月から高校生を対象にコミュニケーション講座や「おんぱく」のガイドブックを作るために必要な技術習得の研修を行いました。今年の講座については、大人が主導で進めてきました。</p> <p>現在は、二期生が来年に向け活動を始めています。今回の手法については、講座の内容、どんな講師にするかなど、全て学生主導で進め協議を重ねています。</p> <p>一期生が次の後輩をサポートしたり、アドバイスをあげたりなど、学校を超えた縦横の繋がりを作り、地域に関心を持ち行動する若者の居場所やコミュニティを確立したいと思います。学生たちが、大学を卒業した後、また、御坊・日高地方へ戻ってきて、今度は、高校生を指導する立場でこの「おんぱく」に関わってもらいたいと思います。そういった環境作りが地域の大人の大きな役割だと思います。</p> <p>この活動が、御坊・日高地域の文化となって地域で協力し合うことが、この地方の特色となれば素晴らしいと思います。</p>
古田：	<p>ありがとうございました。</p> <p>須川さんよろしく願いいたします。</p>
須川：	<p>今年は、中学生の事業協力を得てイベントを進めていこうとしています。</p> <p>将来的には、中学・高校生の意見を取り入れたイベントを実施したいと考えています。</p>
古田：	<p>ありがとうございました。</p> <p>今後、古座川をどんな町にしていきたいですか？</p>
須川：	<p>はい。古座川は日本でも深刻な少子高齢者の町です。子供たちが大きくなった時も古座川で育って良かったと、胸を張って自慢できる町に出来たらと考えます。今の活動が地域活性化につながり、古座川を少しでも良くできれば嬉しいと思っています。</p>
古田：	<p>最後にみなさんにお聞きしたいのですが、活動を継続していく上での秘訣などあれば、教えてください。</p>
林：	<p>有田川町ジュニアリーダーの活動を継続させるため、いつでも、誰でも、ウェルカムな姿勢が重要と考えています。実施事業については、新しい事業を取り入れ、同じ事業をするにしても、変化を付け活動を継続していきたいと考えています。</p>

篠原 :	<p>私は心から楽しむことだと思います。楽しくないとやっても辛くなるだけだから。その時は、大変でも終わったときに「楽しかった」と言えるように精一杯頑張りたいと思います。</p>
須川 :	<p>メンバーが無理のない、できる範囲での活動を心がけています。その効果か、核となるメンバーが増員しただけでなく、お手伝いしてくれる人も自然と増えてきているように思います。今後、若者世代にメンバーへ加入してもらい、同じような思いで活動を継続していただける人が出てくると幸いです。</p>
平野 :	<p>これから活動を続けていく中で、膝をつき合わせ、顔を合わせる機会をたくさん作ることが大切だと考えています。どんな町にしたいか、自分たちの町の魅力は何か、みんなが喜ぶプログラムは何かなどを決めて自由に話す機会があると、知らない人でも会話でき仲良くなれると思います。</p> <p>活動を継続するためには、関係者が共通の目的を持つことが大切だと思います。</p>
木下 :	<p>活動をやっている自分たちが楽しむことが一番大切だと思っています。</p> <p>最終的にメンバーは、ボランティアを含め30名程度になりました。初期のメンバーが楽しく活動している姿を見てメンバーに加入してくれました。</p>
古田 :	<p>ありがとうございました。</p> <p>もっとお聞きしたいことがあります。時間の都合もありますので、日本ボーイスカウト初代総長の言葉を最後にして、締めさせていただきます。</p> <p>一に人、二に人、三に人。悩むなら行動せよ。考えるなら行動せよ。</p> <p>自治三訣。人のお世話にならぬよう自助。人のお世話をするように共助。報いを求めぬよう自制。</p> <p>これからも悩みながら皆さんと活動を続けていきたいと思っています。</p> <p>どうも長時間ご静聴ありがとうございました。</p>